

安全・安心のまち  
②

# 子どもたちの生活環境 学校と遊び場

## 学齢期の不安

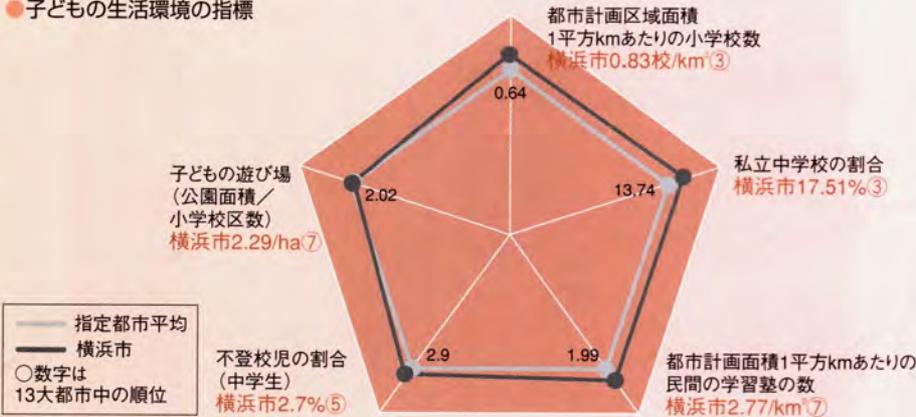
市民意識調査によると、「学校教育の充実」や「青少年の健全育成」は、市民要望のかなり高い項目である。また、「子どもの保育・教育」を心配している市民は、女性30代と男性40代で高い割合となっている。市民生活行動調査では、子どもの教育・学校についての不満は、「教育費の負担」が最も多く、ついで「子どもの進路」「いじめなどの学校での人間関係」「子どもが外で運動できる場が少ない」などとなっている。学齢期の子育て不安は、子どもの友達関係・生活環境と、子どもの進路の2つが大きい。

## 学校と地域の遊び場

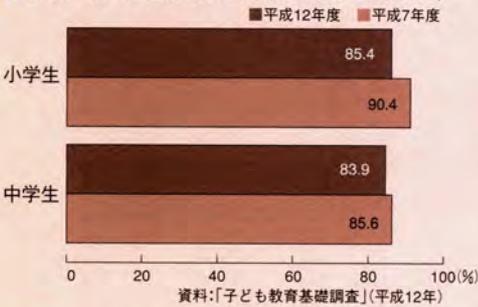
子どもの生活にとって大切な地域における生活資源の豊かさについてみてみたい。小・中学生が放課後自宅以外で過ごす場としては、友達の家、公園、学校、広場やグラウンド、地区センター、子どもログハウス、図書館などがある。なお、放課後や土曜日に小学校施設を活用し、異年齢の子どもたちの遊びを通じて健全育成を図る「はまっこふれあいスクール」は、平成13年度中には小学校全校に開設する予定である。

これらの市内における小学校区別の生活資源の分布をみると、施設個数が「1〜4」が20%、「5〜7」が34%、「8〜10」が23%で、11以上ある小学区も2割以上ある。

### ●子どもの生活環境の指標



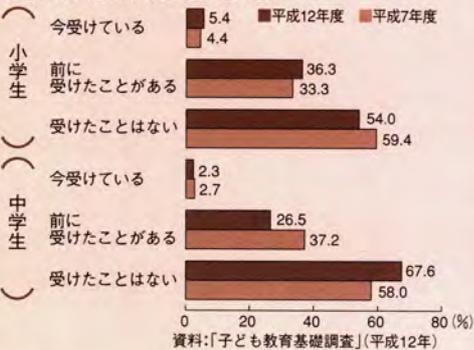
### ●学校へ行くことが楽しい(楽しい+まあ楽しい)



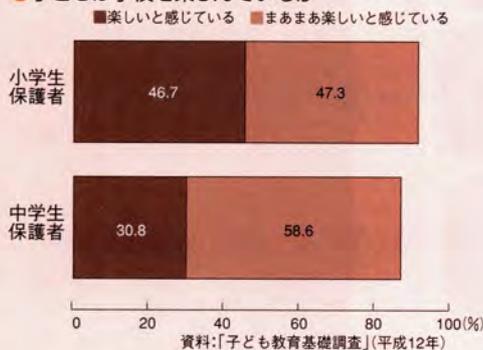
### ●子どもの教育・学校についての不満



### ●いじめを受けたことがあるか



### ●子どもは学校を楽しんでいるか



子どもにとって豊かな生活体験が積めるよう、今後、さらに多様な生活資源や人との交流が可能になるような場が求められている。

子どもの生活環境を大都市比較できるデータは限られるが、小学校や身近な公園などの密度は若干平均を上回り、また、塾やけいこ事など民間の施設の密度も高い。なお、私立小・中学校が多いのも特徴となっている。

### 学校生活

#### いじめ・不登校・引きこもりの対策

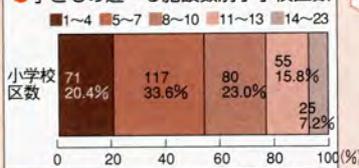
子どもの教育基礎調査によれば、「学校へ行くのが楽しい」と答えた小・中学生は80%を超え、また、小・中学生の親では、子どもが「学校の生活を楽しいと感じている」、「まあまあ楽しいと感じている」が合わせて約90%前後に上っている。しかし、「今、いじめを受けている」「前に受けたことがある」は、小学生40%、中学生30%に達している。また、不登校児童生徒数は、全国的にも上昇傾向にあり、横浜市では、小学生で0・3%、中学生では2・7%という割合となっている。不登校の子どもが「現在の自分のクラスにいる」「過去にいた」と答えた教員は、小学校で67%、中学校で95%に達している。いじめや不登校の現象は、学校生活の今日的な課題となっており、これらの事態に対しては、学校、家庭、地域の連携による適切な対処の仕方が望まれる。横浜市では、不登校・引きこもり対策としてハートフルフレンド家庭訪問事業や適応指導教室の整備などにより、対策の充実を図っている。

また、カウンセラーの中学校全校導入や相談機能の充実など多様な方策により、一人ひとりの子どもの心を開き、悩みや相談に対応できる体制づくりを進めている。

●小学校区別子どもの遊び場



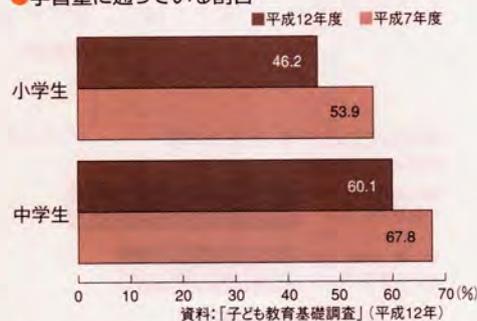
●子どもの遊べる施設数別小学校区数



●放課後遊ぶ場所 (自宅以外)



●学習塾に通っている割合



●部活動参加率

